

在宅取組型(こども園)

学校名等	垂井町立垂井こども園
実施日時	令和4年10月17日(月)～令和4年11月7日(月)
会場	在宅取組型のため各家庭
参加人数	保護者116名・子ども141名
学習課題(分野)	絵本タイム週間(家族の大切さ)
運営者の願い	乳幼児期にこそ絵本の読み聞かせが大切であることを知ってもらい、忙しい毎日を過ごす中でも、どこかで読み聞かせの時間を見つけて、家族の触れ合いの時間を作ってほしい。

学習の内容

<取組の内容>

- 令和4年10月17日(月)～10月28日(金)の期間で、西濃県事務所のプレゼン動画「読み聞かせのよさ」と、資料配布した「乳幼児期の読み聞かせにはどんな効果がある?」を参考にし、期間中に親子で絵本の読み聞かせを行う。(読み聞かせの本は、園で借りられた本や家庭にある本など、どんな本でも、何冊読んでもらってもOK。)
- 配布したA5サイズの取組用紙に子どもの名前を記入し、期間中に特に印象に残った一冊の本の題名、本の感想と読み聞かせ時の子どもの様子等自由に記入する。(色を塗ったりしてもOK。)
- 園で使用しているポートフォリオ(月に2回配布される園で撮影された子どもの写真が綴じてあるファイル)に取組用紙を綴じて令和4年10月31日(月)～11月7日(月)の間で提出。写真と同様、取組用紙を綴じることで我が子への思いを形として残してもらおう。
※ 今回の取組方法や手順、取組例を掲示物として作成した。各家庭に案内文を配布するだけでなく、こども園の送迎時などに見えていただけるよう玄関前に掲示した。

【ポートフォリオ】



【ポートフォリオ内取組用紙】



<保護者からの感想>

- 日々の忙しさを理由に、子どもと向き合うことや、子どもの良さに目を向けることができていなかったのが、良い機会だった。
- 親子の絆を深める良い機会となった。
- 子どもと触れ合う時間や会話が增えた。継続していきたい。
- 読み聞かせをすることで、想像力、感受性、語彙力が豊かになると学んだ。この機会だけやるのではなく、今後も読み聞かせを続けていきたい。
- 寝る前の読み聞かせが日課になった。子どもも喜んでくれ、その喜んでいる顔を見るのが嬉しい。



広がり続ける新型コロナウイルスの影響を踏まえ、各家庭で取り組んでもらえるように、また、忙しい毎日の中でどこかで取り決めるように、取組期間を長くとったため、家族の触れ合いの時間を作ることができました。



在宅での取組により、普段忙しく家庭教育学級に参加出来ないご家庭でも、取組やすい環境ができ、我が子と向き合う時間を作ることができました。